

一〇五三番

我が大君 神の命の 高知らす 布当の宮は 百
木もり 山は木高し 落ち激つ 瀬の音も清し
うぐひすの 来鳴く春へは 巖には 山下光り
錦なす 花咲きををり さ雄鹿の 妻呼ぶ秋は
天霧らふ しぐれを疾み さにつらふ 黄葉散り
つつ 八千年に 生れつかしつつ 天の下 知ら
しめさむと 百代にも 変はるましじき 大宮所